

令和6年10月3日

予察情報6-11

病害虫発生予察情報 第7号

富山県農林水産総合技術センター所長

10月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量			
大豆	紫斑病	やや多い	果樹	黒星病	やや少ない			
野菜	白ねぎ	さび病		並	日本なし	ナシヒメシンクイ	多い	
		軟腐病		多い		ハマキムシ類	多い	
		黒斑病・葉枯病		並		カイガラムシ類	多い	
	ネギアザミウマ	多い		ぶどう		べと病	並	
	ネギハモグリバエ	やや多い			黒とう病	並		
	シロイチモジヨトウ	やや多い		かき三社	フジコナカイガラムシ	並		
	野菜全般	ハスモンヨトウ		やや多い	もも	せん孔細菌病	並	
タバコガ類		並		カイガラムシ類		多い		
果樹	果樹全般	果樹のカメムシ類		多い	花き球根	チューリップ	球根腐敗病	やや多い
	りんご	褐斑病		並		皮膚病		
		炭疽病		やや少ない		きく	白さび病	やや少ない
		カイガラムシ類		多い			アブラムシ	並
花き全般	ハスモンヨトウ	やや多い		タバコガ類		並		

発生量 多い : 平年比 141%以上 やや多い : 平年比 121%以上 140%以内 並 : 平年比 80%以上 120%以内 やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内 少ない : 平年比 59%以下	予報時期 早い : 平年値より 6 日以上早い やや早い : 平年値より 3～5 日早い 並 : 平年値を中心として前後 2 日以内 やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い 遅い : 平年値より 6 日以上遅い
予報の根拠中の (+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少くなる要因 (早発) : 発生が早くなる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。	

I 大豆

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 7～9月5半旬までの気温は平年に比べ高く、降水量は平年よりやや多かった。(＋)
 - ・ 10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 10月27日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)



図1 紫斑粒

- (3) 防除対策
- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
 - ・ 刈遅れは発病を助長するので、刈遅れに注意し、収穫後は速やかに乾燥する。

II 野菜

1 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 9月25日調査の発病株率は0%で平年(0.2%)並に低かった(±)。
 - ・ 10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(－)
 - ・ 10月27日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)



図2 さび病罹病葉
(夏孢子)

- (3) 防除対策
- ・ 低温期に発生が多いため、予防散布に努める。系統の異なる薬剤をローテーション散布するとともに、収穫間日数に留意する。
 - ・ 防除指針：97 ページ参照

2 白ねぎの軟腐病

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 9月25日調査の発病株率は5.0%で平年(2.8%)より高かった。(＋)
 - ・ 病害虫防除員からの報告では、これまでの発生は多かった。(＋)
 - ・ 10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 10月27日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
 - ・ 発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。
 - ・ 防除指針：98 ページ参照

3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 9月25日調査の発病株率は4.0%で平年(10.4%)より低かった。(－)
 - ・ 10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(±)
 - ・ 10月27日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ さび病やネギアザミウマ、ネギハモグリバエ等の病害虫の被害は本病の発生を助長するため、他の病害虫を含めて薬剤防除を計画的に実施する。
 - ・ 防除指針：97～98 ページ参照



図3 黒斑病被害葉

4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 9月25日調査の被害株率は69.0%で平年(51.7%)よりやや高かった。(＋)
 - ・ 10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 土寄せ毎に殺虫剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、散布剤で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
 - ・ 防除指針：99～100 ページ参照



図4 ネギアザミウマ被害葉

5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 9月25日調査の被害株率は21.8%で、平年(25.0%)並だった。(±)
 - ・ 10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 土寄せ毎に殺虫剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、散布剤で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
 - ・ 防除指針：99 ページ参照



図5 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫の食害

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は214.2頭で、平年(185.0頭)並だった。(±)
- ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・幼虫は老齢になると薬剤の効果が低下するので、ほ場の見回り等による早期発見に努め、若齢のうちに薬剤散布を行う。
- ・防除指針：100 ページ参照



図6 5齢幼虫(左)と成虫(右)

7 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる直近9月5半旬の誘殺数は135頭で平年(74頭)より多かった。(＋)
- ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている(＋)

(3) 防除対策

- ・防除指針：67～131 ページのハスモンヨトウの項参照



図7 ハスモンヨトウ幼虫

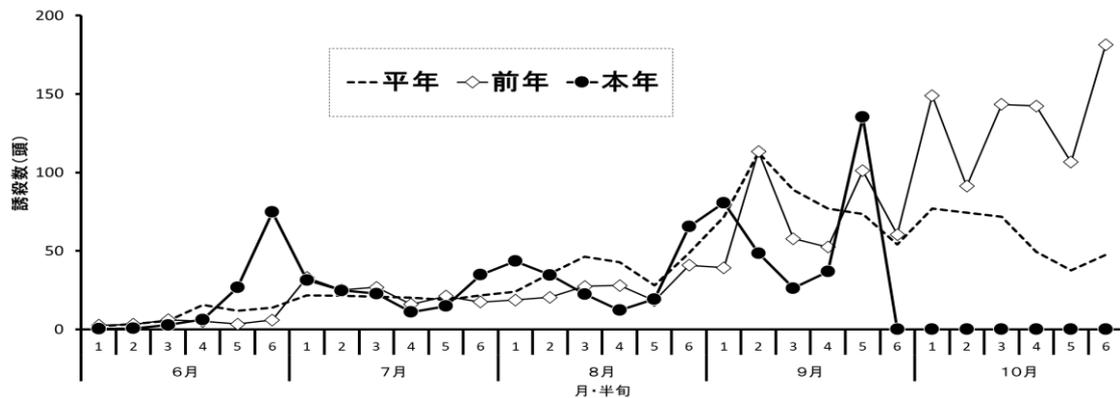


図8 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

8 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが16.3頭で平年（49.2頭）より少なく、オオタバコガは70.4頭で平年（84.1頭）並だった。（±）
- ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・防除指針：67～128ページのタバコガ類の項参照

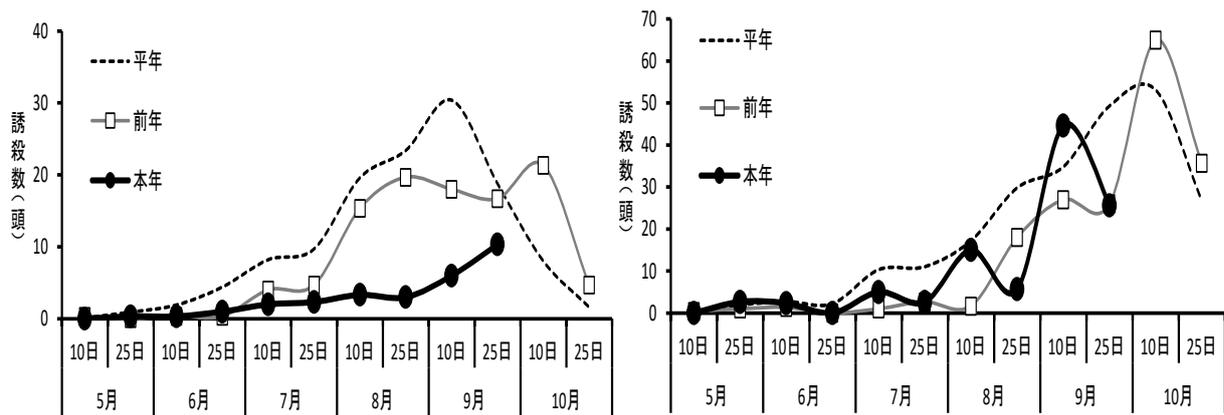


図9 フェロモントラップによるタバコガとオオタバコガの誘殺数の推移
(左：タバコガ 右：オオタバコガ)

Ⅲ 果樹

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は67.2頭で、平年（4.8頭）より多かった。（+）
 - ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
- ・令和6年5月23日発表の病害虫発生注意報第1号参照
 - ・防除指針：りんご140～141、143～145ページ、日本なし152、155～156ページかき167ページ参照



図10 チャバネアオカメムシの成虫（左）と卵（右）

2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量はほぼ平年並であった。（±）
 - ・10月27日にかけての降水量は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・長雨が予想される場合や褐斑病の発生が多い園地では、SDHI 剤を散布する。耐性菌出現防止のため、使用に当たっては連用を避け、SDHI 剤（混合剤を含む）の年総使用回数は原則2回以内とする。
 - ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤の到達性を高める。
 - ・発生の多かった園地では、り病落葉による病原菌の越冬密度を下げるため、落葉処理（園地外に持ち出し処分、乗用草刈機による粉碎等）を徹底する。
 - ・防除指針：136～138、142～143ページ参照



図11 褐斑病の初期病斑（左）と進行した病斑（右）

3 りんごの炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は平年と比べて少なかった。（-）
 - ・10月27日にかけての降水量は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：138、142～143ページ参照



図12 炭疽病のり病果

4 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年と比べて多かった。(＋)
 - ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・発生園地では、翌春の発芽前の暖かい日を選びスプレーオイル(50倍)を散布する。
 - ・多発樹では、スプレーオイル散布前にワイヤーブラシなどで削り落とす。
 - ・防除指針：134、140～141、143～145 ページ参照



図13 カイガラムシ類による被害果

5 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年と比べて少なかった。(－)
 - ・10月27日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・芽基部感染による病原菌の越冬密度を下げるため、10月上中旬から、10～14日間隔で2回秋季防除を実施する。また、発生が多かった園地では、11月上旬に殺菌剤の追加散布を実施する。
 - ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・り病落葉による病原菌の越冬密度を下げるため、落葉処理(園地外に持ち出し処分、乗用草刈機による粉砕、ロータリによる土壌すき込み等)を徹底する。
 - ・防除指針：148～151、154 ページ参照

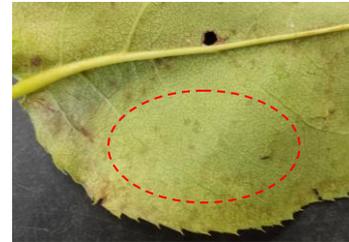


図14 黒星病の秋型病斑葉

6 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬の誘殺数は26.5頭で、平年(20.9頭)よりやや多かった。(＋)
 - ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：151～152、155～156ページ参照

7 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬の誘殺数は6.7頭で、平年(2.0頭)よりやや多かった。(＋)
 - ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・被害葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生が多い園地では、アグロスリン水和剤(2,000倍、収穫前日まで)を散布する。
 - ・防除指針：148、151、155～156ページ参照

8 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年と比べて多かった。(＋)
 - ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・発生園地では、翌春の発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。
 - ・多発樹では、マシン油乳剤散布前にワイヤーブラシなどで削り落とす。
 - ・防除指針：146、151～152、155～156ページ参照



図15 ナシマルカイガラムシによる被害果

9 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
 - ・10月27日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・収穫後に銅水和剤又は硫黄・銅水和剤を散布する。
 - ・病原菌の越冬密度を下げるため、被害落葉は集めて園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：157～161ページ参照

10 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
 - ・10月27日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・収穫後に銅水和剤又は硫黄・銅水和剤を散布する。
 - ・病原菌の越冬密度を下げるため、被害枝や棚線に残っている巻きづるや穂軸基部(前年のなり跡部)は除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：157、159～161ページ参照

11 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬の誘殺数は369.5頭で、平年(528.8頭)より少なかった。(－)
- ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・発生の多かった園地や発生が懸念される園地では、粗皮削りを行うとともに、発芽前の暖かい日を選びスプレーオイル(25～50倍)またはハーベストオイル(50倍)を散布する。ただし、4月上旬(発芽前)に散布するホーマイコートと近接散布にならないように注意する。また、4月下旬にアプロード水和剤(1,000倍)を散布する。
- ・発芽前～発芽期にスタークル顆粒水和剤の樹幹塗布を実施する。
- ・防除指針：163、166～167ページ参照



図16 フジコナカイガラムシの雌成虫

12 もものせん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
- ・10月27日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・発生の多かった園地では、病原菌の越冬密度を低下させるため、10月上旬にICボルドー412(30倍)を追加散布する。
- ・台風等強風が予想される場合は、事前にICボルドー412(30倍)を散布する。
- ・防除効果を高めるため、散布前には秋季せん定を実施する(作業終了後、速やかに切り口に保護材を塗布する)。
- ・防除指針：169、172ページ参照

13 もものカイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年と比べて多かった。(＋)
- ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・発生の多かった園地では、翌春の発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。
- ・多発樹では、マシン油乳剤散布前にワイヤーブラシなどで削り落とす。
- ・防除指針：168ページ参照

IV 花き・球根

1 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・一部で貯蔵球根に球根腐敗病の発生がみられている。(＋)

(3) 防除対策

- ・り病球を除去するなど種球の選別を徹底する。
- ・地温の高い時期の球根の植付けは発生を助長するので、地温が15℃以下になる時期の植付けに努める。
- ・ベノミル耐性菌が確認されているので、スポルタック乳剤など耐性菌の確認されていない剤を用いて、使用方法を守り、植付け前の球根消毒を行う。
- ・防除指針：186 ページ参照



図 17 球根腐敗病り病球根

2 チューリップの皮膚病

- (1) 予報内容 発生量：
- ※発生量は開花後の気温が影響するので次号に掲載

(2) 防除対策

- ・植付け前の球根消毒を行う。ただし、フロンサイド水和剤とスポルタック乳剤を混用処理すると薬効が落ちるため、2剤の組み合わせでの使用は避ける。
- ・防除指針：186 ページ参照



図 18 皮膚病り病球根

3 きくの白さび病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・9月25日調査の発病株率は0%と平年(0.0%)並に低かった。(－)
- ・10月27日にかけての気温は高く、降水量は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・予防散布に努めるとともに、罹病株は伝染源となるため抜き取り適切に処分する。
- ・防除指針：188～189 ページ参照

4 きくのアブラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・9月25日調査の1葉虫数は0.0頭と平年(0.0頭)並に少なかった。(－)
- ・10月27日にかけての気温は高く、降水量は平年並と予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・防除指針：190～191 ページのアブラムシ類の項参照

5 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる直近9月5半旬の誘殺数は135頭で平年（73.6頭）より多かった（図8）。（+）
 - ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・防除指針：186～212ページのハスモンヨトウの項参照

6 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが16.3頭で平年（49.2頭）より少なく、オオタバコガは70.4頭で平年（84.1頭）並だった（図9）。（±）
 - ・10月27日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・194～212ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

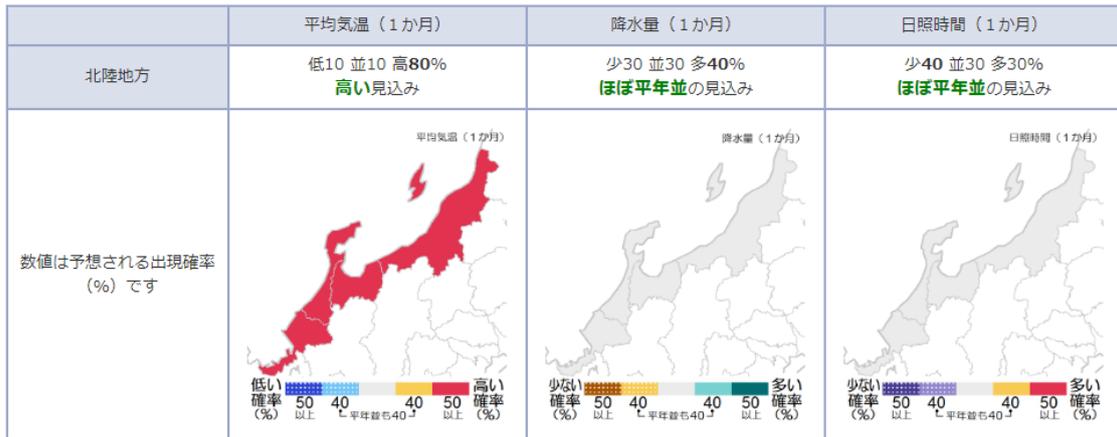
○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

北陸地方 1か月予報
 (予報期間 9月28日から10月27日)

9月26日
 新潟地方气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
 TEL 076-429-2111
 FAX 076-429-7974
 情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

